

京都「被爆二世・三世の会」会報

京都市中京区壬生仙念町30-2
ラポール京都5階
京都原水爆被災者懇談会気付
TEL 075-811-3203
FAX 075-811-3213
HP <http://aogiri2-3.jp>

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation Hibakusha(Atomic Bomb Survivors)



2023年1月6日(金) 今年最初の6・9行動 清水寺にて

憲法9条と核兵器禁止条約を力に！！ 会員のみなさんの2023年メッセージ	2
語り継ぎプロジェクト「Storytelling for Tomorrow」の企画紹介 榊原恵美子	11
会員から会員へ みなさんからのお便り紹介	12
本・DVD・映画・番組の紹介と交流	13
「迫りくる核リスク<核抑止>を解体する」	
SCRAPBOOK／ 『黒い雨』新制度1940人救済 被爆者手帳広島以外110人(毎日)	13
「本川小・袋町小・通信病院旧外来棟 原爆資料館の付属施設に」	15
編集後記	15
2023年2月の行事カレンダー	16

憲法9条と核兵器禁止条約を力に!!

会員のみなさんの2023年メッセージ

■2023年は身近にいる2世3世に呼びかけた

米重節男（向日市）

核兵器が使われる危機がますます大きくなっている年明けです。ウクライナでの戦争に乗じて、日本は原発推進と大軍拡で核兵器を持とうとしているのではないかと思われるほどの方向転換で、不安が増します。

昨年11月末に、母方のいとことその子らで6人が集まる機会がありました。それぞれの母親が広島の実家に来たこと、それぞれの母親が広島の被爆者で、すでにいずれも故人です。集まった全員が被爆2世と3世です。

母親が被爆者であることは互いに知っていたことですが、これまで顔を合わせても被爆について話す機会がありませんでした。今回の集まりで、親の被爆のことが話題になりました。そこで、私が母の被爆体験記を書いたことと、母と私の肖像画を描いてもらったことなどを話しました。いとも年取ってきて、親の被爆のことを詳しく知りたいと思うし、書き残しておきたいとの話が出されました。それで、被爆者手帳を取った時の申請記録のことを説明したら、手続きなど詳しいことを教えてほしいとの話がありました。また子どもの時にABCに連れて行かれて、身体検査をされたという体験が話に出ました。私も初めて聞くことでした。これまで多くの体験談で、ABCでの身体検査のことは聞きましたが、実際にその体験をしたという人が親戚にもあったとは驚きのことでした。

被爆者の親は亡くなり、2世3世の代となって歳も重ね、自身の健康についても諸々の問題を抱えていることもわかりました。

今年は身近の2世3世を探して、健康や共通する問題に取り組んでいくことよう呼びかけていこうと思います。

■久しぶりの故郷で

堀 照美（上京区）

年末に広島の実家に帰ってきました。12月29日が弟の命日で、癌で死亡したのは自分が被爆したからだと言われ、落ち込む母の側にいたいという思いからです。

南の端に高速道路が出来ていて、光南から江波まで歩道があって、歩いて30分ぐらいで吉島から江波に行くことが出来ました。江波では、シュモアハウスや、江波山気象館、被爆記念碑に行きました。広島で育ったにもかかわらず、フロイド・シュモア氏のことは初めて知りました。

今年もみなさんと一緒に学習し、平和・民主主義を守るとりくみにかかわっていききたいと思えます。



江波山の母と子の抱き合った慰霊碑

■お祖父ちゃんの体験が私の原点

小林孝宏（東山区）

今年4月のいっせい地方で、京都市会・東山選

挙区から立候補を予定しております、日本共産党の小林たかひろです。

私の祖父は、長崎で被爆しています。そのことを私が祖父から初めて聞いたのは高校1年生の夏でした。高校1年生の夏休みに、民主青年同盟・高校生生班に所属していた私は、同じ高校生同盟員の仲間と一緒に、原水爆禁止世界大会に参加をしました。8月6日の平和公園というのは特別な空間で、それこそ日本中・世界中から平和の思いを持った人々が集まってきます。その感動を、お盆休みに帰省したときに祖父に話したところ、「孝宏、実はおじいちゃんなあ、長崎で被爆してるんじゃ・・・」と。

驚いたのは、私の父もその時初めて、自分の父親が被爆者だと知ったということでした。祖父は兵庫県・宍粟郡の生まれ育ちで、外に出たことはありません。どうして被爆したのか？祖父の話によるとこうでした。

「8月1日に赤紙が来てのう、8月5日の夜出発で九州に向かうことになったんじゃ。ところが、広島を通るはずだったんじゃがなぜか広島を通れないというんで（後になって広島に原爆が落ちたからと知った）、山陰の方からぐるっと回って、九州の久留米駐屯地についたんが8月8日じゃった。」

「次の日には鹿児島へ向かうはずが、9日に長崎に原爆が落ちたんじゃ。あの時は昼間なのに夕焼けみたいな空じゃった。」

「その日のうちに、行先変更で長崎に救援に向かったんじゃが、そりゃもうひどいありさまじゃった」。「わしに与えられた任務は長崎の大学病院の入り口で、助かりそうなもんだけを中に入れて、助かりそうにないもんや元気なもんを中に入れんようにする、門番のような仕事じゃった。これは辛かったぞ」。「孝宏ええか？ 母親ちゅうんは強いんやぞ。死にそうになった赤ん坊を抱えて『自分は良いからこの子を助けて！』ちゅうて詰め寄られた、あの時のお母さんの必死の形相は、今でも忘れることができん」と。

この話を聞いた衝撃、そして自分が被爆者三世だったことを自覚したことが、政治家・小林たかひろの原点となっています。

今度の選挙は、岸田政権の大軍拡・敵基地攻撃

にまで踏み込む大暴走にストップをかけるかどうかの歴史的な分かれ道の選挙です。必ず勝利する決意で、猛奮闘中です。東山区にお知り合いがおられましたら、ぜひご紹介ください。

■今年も肖像画を通じて被爆の継承

増田正昭（下京区）

あけましておめでとうございます。

今年も被爆者の肖像画と個展開催、絵画展などを通じて被爆体験の継承、被爆者の思いをたくさんの方に伝えていきたいと思います。

昨年も、個展をおこなうことができ、皆さんからご協力、ご支援でたくさんの方が見ていただき、成功することができました、ありがとうございます。たくさんマスコミに取り上げてもらい、すこしでも被爆体験継承に役立ってうれしかったです。いろいろな方とのつながりも広がりました。

新年そうそう、31人目の被爆者、7人目の被爆二世の肖像画の取材とデッサンを行いました。昨年に引き続き二世の方も描いていきますのでご協力をお願いします。

こういう形ですが、体に気をつけながら頑張ります、昨年同様、皆さんのご協力とご助言をよろしくをお願いします。

■反核・平和の声をあげるいま

藤井信也（宇治市）

2023年 あけましておめでとうございます。

私事ではありますが、新年早々65歳となり、再任用期間を3月末で終えようとしています。

4月からどうしようか現在思案中ですが、日本が大軍拡を開始し、再び戦争ができる国になろうとしているいま、たとえ小さくても反核・平和の声を上げることが重要になってきていると思います。会のみなさんとともに力を合わせたいと思います。

■コスタリカに見る“外交”の力

井上哲士（左京区）

明けましておめでとうございます。年末に「安保三文書」が閣議決定され、「戦争か平和かの歴史的岐路」の中で緊張感をもって迎えた新年です。

年初から「戦争する国造り許さず、九条生かした平和の外交こそ」と訴えています。その中で、自民党などが「外交のためにも防衛力強化が必要」と言うことに対しこう反撃しています。「私は被爆二世として核兵器禁止条約を採択した国連会議に参加しました。核大国の妨害を打ち破って採択したこの歴史的会議の議長を務めたのはコスタリカの外交官であるエレン・ホワイトさんでした。中米の人口500万人余りの国であるコスタリカ。軍隊を持たない国として有名です。その国がこれだけの外交力を発揮したのです。唯一の戦争被爆国であり、憲法九条を持つ日本こそがコスタリカのような外交力を発揮すべきです。それなのに、まともな外交もせずに軍拡に走っているのが岸田政権ではないでしょうか。」

統一地方選で、岸田政権の大軍拡に審判をくだすためにがんばります。今年もよろしくお祈りします。

■「ナンプレ」最高！

吉田妙子（北区）

遅まきながら「ナンプレ」にハマっています。数字は苦手ですが、「脳トレ」になると聞き、100円ショップで初級編を買い、お正月は「ナンプレ三昧」でした。笑われるほど、時間がかかります。途中で行き詰まっても、じっくり見直すとやっぱり見過ごした箇所が見つかり、あとはトントン拍子、それが見つかったときの嬉しいこと（笑）！究極の暇つぶしと思いながらも、100円でこんなに集中でき、気分転換できるなんて、ナンプレ最高です！

さて、年末の徹子の部屋で「来年はどんな年になるのでしょうか」と聞かれ、「新しい戦前になるんじゃないでしょうか」と即答したという、タモリさんの言葉に「さすが！」と感心しています。あの時代に生きていたら、「国防婦人会」で旗を振っていただろう自分の性格を大いに自覚し（笑）、意見や考えの違う人とも寛容に話し合い、戦争への道をゆるさない世論が多数派になるよう、がんばりたいと思います。

■アメリカの情報をさらに発信していきます

宮本ゆき（アメリカ・シカゴ）

明けましておめでとうございます。ウクライナ戦争が終結しないまま2023年を迎えることになりました。こうした状況を鑑みて日本も防衛力を、と言ったような声や、実際に防衛費を倍増するなど、日本がウクライナのように（そして古くは朝鮮戦争、ベトナム戦争、イラン・イラク戦争）代理戦争に使われる道に突入しているようで、まさしく「新しい戦前」と思わずにはいられません。

また原発再稼働が始まろうとする中、福島の内ノベーショーン・コーストに巨額の予算が投入されていますが、この構想はアメリカ最大の放射性物質汚染地帯であるハンフォードを「モデル」にしています。しかし、アメリカでさえその被害は知られていない中、除染に成功した研究都市のように日本には紹介されています。ご自身ハンフォード風下被曝者であるトリシャ・プリティキン氏の「ハンフォードの原告たち（仮題）」の翻訳書が5月頃出版される予定ですので、是非ともハンフォードの被害について日米ともに学ぶ機会を作っていきたいと思っています。

また、ハンフォードを南に下った大都市ロサンジェルスから、ほんの60キロ以内にあるサンタ・スザンナ・フィールド研究所の汚染も最近のドキュメンタリー映画で話題になりました（In the Dark of the Valley）。この研究所の周囲16キロ以内には70万人もの人が住んでいて、研究所からの放射性物質により、近年頻発する山火事での大気汚染、水質汚染が問題となっています。さらにアメリカ全土で1億7千万人の人の飲料水に何かしらの放射性物質が混入している、と言う研究もあります。これほどの環境汚染の上、原発再稼働や軍備増強、戦争など正気の沙汰とは思えません。

私事ですが去年9月から勤務校の人文センター（DePaul Humanities Center）のセンター長に就任しました。授業数は減りますが、アメリカの情報を日本にご紹介したり、日本や世界の現状をアメリカで発信するような活動をさらに続けていこう、と思っています。これからも皆様のお力をお貸し頂きたいと思っています。今年もどう

ぞよろしくお願ひします。



リカバーリー・アウト（回復法、復興法などと訳される）によるサンタ・スザンナ・フィールド研究所での汚染を測る作業員



サンタ・スザンナ研究所で2018年11月に起きた火事（ウールズリー火事）で放射性物質が近隣に拡散

■2023年年頭にあたって

守田敏也（左京区）

みなさま。2022年は大変、お世話になりました！今年もよろしくお願ひします。

昨年後半より、岸田政権が原発推進と軍拡に踏み出しました。今年は何んとしても、この流れを食い止めましょう。岸田政権はまた発足時に「新



しい資本主義」を掲げました。新自由主義のもとであまりに矛盾が拡大しているからです。しかし何もしていない。それならばこの資本主義の矛盾を越えていく道も、みなさんと切り開きましょう。

● 原発から命を守るため、被曝問題とより深く向かい合おう

原発を止めるために大事なことは危険性を繰り返し明らかにすること。そもそもたった一か所の原発事故で日本の半分が壊滅するほどの危険性があるのです。しかもそんな原発が地震に極めて弱い。日本列島は地震の巣で、今も大地震が起こる可能性が高いから原発はもつての他なのです。この点を訴え続けましょう。

また原発事故が恐ろしいのは大量の放射能が飛び出してくるから。政府はこれに対し「放射能は思ったより危なくなかった」キャンペーンを進めています。実際は正反対。原水爆や福島原発事故などで、深刻な健康被害が進み、遺伝的影響も明らかになっています。これと向き合い命を守ることが大事。それが原発を止める根源的な力にもなります。



● 軍拡を止めるため反戦の声を成長させよう

岸田政権の軍拡はウクライナ戦争を利用して、ロシアの侵攻によって始まったものですが、今も継続しているのはアメリカが膨大な武器を送り続けているから。ところが欧米や日本のマスコミは、ロシアの悪さを強調し、アメリカが一方の戦争当事者であることを批判しません。岸田政権はその論調に乗っかって軍拡を進めているのです。

この点を捉え返し憲法を輝かせましょう。憲法が掲げたのは戦争で紛争を解決することの否定。だから「陸海空軍およびその他の戦力はこれを保持しない」とうたいました。そこに示されたのは正義があろうと戦争を支持しない信念で、世界を

戦争から救う道はここにしかありません。この点の論議を深め、反戦の声を成長させましょう。



「新しい憲法の話」文部省より

● 資本主義の矛盾を越える道を切り拓こう

さらに原発も戦争も資本主義の暴力性の象徴です。だから資本主義批判を今こそ深めなくては。そもそも原発は核兵器開発で生まれ、核戦略維持のため推進されました。そこには一部の人々の利益のためなら、多数の人を犠牲にしてもかまわなという恐ろしい価値観が貫かれています。

これはもともとの資本主義の暴力性です。資本主義の特徴は私有化を進めることで土地の強奪から始まりました。世界中で軍隊で人々を征圧し、植民地を増やしながら「成長」したのです。

現代ではその暴力性が社会主義の失敗のもとでより強まっています。これを正すため、僕は社会的共通資本の考えに可能性があると確信していますが、ぜひみんなで議論を深め、新たな可能性を切り拓きましょう。宇沢弘文先生が提示された社会的共通資本のアイデアをみんなで生かそう！

● 本を出版するとともに海外への発信力を増します

これらのために、僕は今年は多数の論文書き、本の出版を進めようと決意しています。実はこれ、ここ数年、何度か表明し、支援も受けながら十分に進められていない僕の壁です。今年はこれを必ず突破します。公言することで自分に縛りをかけます。

同時に、核の問題を軸に日本から世界への発信を強化することが大事。憲法の問題も発信したい。そのため海外に赴くことも含めて発信力を増強します。これまた大きな壁ですが突破します。ともあれ一心不乱に頑張ります！みなさん、明るい未来を切り開くために一緒に頑張らしましょう！



宇沢弘文先生が提示された社会的共通資本のアイデアをみんなで生かそう！ 2005年 守田撮影

■ 「被爆体験伝承」デビューの年

庄田政江（大阪市・平野区）

新年おめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。

私は昨年によく広島市の被爆体験伝承の原稿の認定を受けることが出来ました。河野キヨ美さんは90才を超え、私の最後の実習に参加してコメントを下さりお元気で安心しました。まだ今も一人暮らしで、証言を続けておられます。娘さんも伝承者でピースボランティアをしながら支えておられます。

沸々と原稿を、書き直したくなる気持ちはありますが、これで一段落つけてほっとしています。今年は数回資料館の地下で伝承講話をし、また英語にも翻訳して行こうと思っています。希望としては今年中に関西でデビュー出来ればと思っています。ゆっくりでも一歩ずつ前進していくつもりです。

後は手術後1年2ヶ月経過しましたが、今年も健康第一で頑張りすぎないようにブレーキをかけながら過ごして行こうと思っています。

皆様と学び活動していきたいので宜しくお願い致します。

■97歳の母との二人三脚

鳥羽洋子（茨木市）

皆様、新年おめでとうございます。

昨年の「被爆者を励ますつどい」では久しぶりに皆様方とお会いすることができて、母もとても喜んでおりました。帰りに頂いたスイートピーが、今も枯れず可憐に咲いています。

新年もコロナ、ウクライナという重苦しい国際情勢が続いています。日本でもまるで戦時下のような防衛費偏重の予算案や原発推進への大転換など、国民の意向を無視した政策がさも当たり前のように次から次へと打ち出されてきています。こうした流れに押し潰されないよう、できるところから声をあげていきたいと思えます。

二月末には、昨年から延期となっていた茨木の市民団体の集会「戦争体験を語る(聞く)会」で母と共に話すことになっています。97歳の母との二人三脚は今年も続きそうです。

■軍事費ではなく食糧自給率

花岡和子（京田辺市）

あけましておめでとうございます。今年は戦争が終わることを願います。

足腰の痛みがあり、同じ年齢の方が亡くなることも多くなり、少し自信がなくなります。でも、80歳、90歳、100歳でもお元気な方もいらっしゃるの、人それぞれかな？と思えます。

政府は軍事費を増やすと言いますが、38%の食糧自給率の日本は武器がなくても食糧が輸入できなくなればかなりの人が亡くなります。軍事費ではなく食糧自給率を増やすことが大切です。数少ないですが、里山で暮らす人は山で木を切り、家を建て、薪ストーブで暖をとり、畑で野菜やコメを育てています。日本の江戸時代は貧しいながら自給自足でした。生き方を考える時なのでしょう。

■孫たちに平和の尊さ、維持していくことの覚悟を伝えたい

古田京子（八幡市）

明けましておめでとうございます。

昨年は七人目の孫が生まれました。この子が大人になったときに、どんな世界になっているのかと

思いを馳せています。

人が人として幸せでありますように！

今年は2番目の孫が中学を卒業します。

卒業式が終わったら、広島原爆ドームや原爆死没者追悼平和祈念館と一緒にいくことにしています。孫には初めての広島です。会ったことのない祖父母の写真も祈念館には納められています。

新しい年を迎え、これからの時代を担っていく若い世代に、平和の尊さや、維持していくことの覚悟を伝えたいと思っています。

■102歳を迎える父と共に

佐々本好信（右京区）

今年もよろしく願いいたします。

私の父親は今年102歳を迎えます。親子共々元気に新年を迎えることができました。自分も含め、皆様も体調に気を付けてまいりましょう。

■今年こそ

山根和代（右京区）

ずっと気になっているのですが、せっかく京都被爆二世・三世の会があっても、日本語だけでなく海外の人に伝わらないことです。会の目的など、基本的な情報の英訳を、今年はしてみたいと思います。

■楽しいな肖像画

國府幸代（北区）

新しい年が穏やかな一年となりますよう心よりお祈りいたします。

2年前のコロナ禍で広島被爆者の母の肖像画を描いていただいて、今年は被爆二世の私の肖像画を増田さんに描いていただけるそうで、とても嬉しく、楽しみにしています。

皆様には笑顔の花咲く一年でありますように。

■「被爆二世」が主役になる2023年に

石角敏明（長岡京市）

あけましておめでとうございます。

昨年は、「会」結成10年目をむかえたし、「被爆体験記」も「上・下」発刊出来「二世・三世の会」も大きな節目の年だったのでないでしょうか。

今年度は、「私達、二世」が主役になる活動も展開してもよいのではないのでしょうか。例えば「健康調査アンケート」の集約と対外的な発表も必要だと考えますし、「京都二世・三世の会」ここにあり、というアピールにもなるのではないのでしょうか、そして、全国の皆さんとの交流も再開出来ればいいなあーと願っています。「被爆二世」が主役になるような「活動」を今年は増やせばいいなあー、と願っております。出来るだけ多くの皆さんが、活動に参加してほしいな、と願っております。お互い「健康」に気をつけてがんばりましょう

■今年もよろしく

本田久美子（左京区）

あけましておめでとうございます。

初春のお参りは、いつも近所です。哲学の道の終点（起点？）にあります。

平和を願って！

今年もよろしく願いいたします。



■謹賀新年 本年もよろしく願いします

小林こうき（宇治市）

2022年の年賀状を書いている時には思いも及ばなかったウクライナへのロシアの軍事侵攻、終わりが見えない。犠牲になるのは子ども・女性・若者など市民である。日本では、軍拡・増税が声高に、歴史に学んでもらいたい。

世界が「核兵器のない世界」を求め「核兵器禁止条約」が発効。日本政府は条約へ「なぜ参加しないの？日本も参加を！」、「原発事故から何も解決していないのになぜ再稼働・運転延伸なの」声を上げていきたい。

趣味の芝居鑑賞、前進座・初春特別公演「周五

郎作品/雨あがる」で幕開け。京都労演は2月例会劇団昴「評決」公演から。これも平和であればこそその楽しみです。



みかえり兎（宇治神社）

■孫たちに被爆二世の私のことを話せる日

野間優子（吹田市）

今年も子や孫と一緒に、年末年始恒例の“集い”・食事会を持ちました。元気に生活できていて幸福です。この子たちに、私が被爆二世のことを話せる日を楽しみながらのひとときです。でも、驚いたり、悲しんだりしたらと思うと、なかなか話せません。（でも本当は知っているかもね?!）

さて、私ごとと合わせて、核兵器禁止条約ができたことの喜びと被爆者の方々が世界中に体験を話に行かれていたことを知った時の感動は、今も私の崇拝・尊厳のすべてです。そして2022年6月21日～23日ウイーンで第1回締約国会議が開かれ、ウイーン宣言が採択され、「最後の国が条約に参加し、最後の核弾頭が解体・破壊され、地球上から核兵器が完全に廃絶されるまで、私たちの活動は休むことがないだろう」と締めくくられたことに感動しました。

今の日本の岸田首相（広島県生まれなのに）の自民党政治では、戦争での唯一の被爆国としての責務はよう果たせないやろうな、と悲観することもなく、被爆者からの依頼を受けて二世の私が大阪原水協常任委員会に参加させてもらい、多くのことを学びながら、確信を持ってとりくませてもらっています。

また京都「被爆二世・三世の会」への参加も、みなさんと会える日を楽しみにしながらがんばっていきたいです。

■祈る

木全満知子（和歌山県橋本市）

人として生まれたために、病に対する不安、死に対する不安、経済的な不安をかかえることになりました。

今年もコロナウイルスという病をかかえています。経済が復旧するとありがたいという願望がありますが、経済が発展すればCOP27ということで世界の197の国々と地域が集まって、地球の温暖化を防ぐため、石炭をはじめとした、エネルギーの消費を削減することをよびかけ議論しています。

他国を侵略して戦争を起こしているロシア、台湾は中国の一部であったのだから、中国のものにすることを目的にしている習近平の独断主義。金正恩が率いる北朝鮮は、あちらこちらにミサイルを打ち上げ核開発をし、韓国や日本に揺さぶりをかけるなど、訳の分からないことをしています。世界の国々は何を考えて新しい年を迎えようとしているのか予想がつかえません。軍備を整えて恐ろしいことを考える国がはびこらなければと願うばかりです。

世の中、安穩あれと
至心合掌



徳明寺
(和歌山県橋本市)

■今年は故郷・長崎へ

西村八郎（南区）

古希を迎えて、今年は仕事を減らそうと考え、アワヨクバ終活を、と考えています。

5月から6月にかけて田舎の長崎に帰り、友人等に会ってこよう、自分の生まれた地域等も見つめ直してこようと考えています。

被爆「二世・三世の会」の会員としては、できるだけ例会に参加する回数を増やせればよいと思います。核兵器禁止条約を批准させ、平和な日本を創る意味では、住んでいる地域の南区にできるだけ早く南区憲法9条の会を再確立させたいと思い、新年の抱負として考えています。

■「奇跡の命」を受け継ぐ

田尾まゆみ（木津川市）

新年あけましておめでとうございます。木津川市に住んでいる田尾です。

私の母は、16歳の時、広島・長崎と二度の原爆で被爆を体験して心身ともに辛い人生を歩んできた人でした。悲惨な状況の中にもありながらも不思議な力で「命」が守られて、母から受け継いだ「奇跡の命」、私という新たな「命」が生まれて、子どもから孫へと「奇跡の命」は受け継がれています。今思えば生きていてだけで不思議に思います。私を産んでくれたことに母に感謝です。

守られた「奇跡の命」と共に、人と人との「繋がり」を大切に心癒し、健康な身体で一年を過ごしたいと願っています。本年もよろしくお願ひします。

■統一地方選挙ガンバル!

畠中孝敬（南区）

あけましておめでとうございます。

昨年は、年始早々に心臓カテーテル検査、その結果、冠動脈一部が細くなっている。3月に右冠動脈ステント留置手術を受ける。12月の心臓カテーテル検査でステント留置部異常なしと診断、薬療法は続く。

年末年始にかけて、長女・孫娘がコロナ陽性で隔離生活。両者とも、ほとんど無症状だったが、長女は6日間で抗原検査（－）、孫娘は抗原検査（－）まで7日間かかった。隔離期間は7日～10日間は必要だなと思った。

今年は統一地方選挙、南区定数5名で2名の市会議員を維持したい。が前回4位、5位の滑り込みセーフ状態の選挙だった。しかも、維新・京都党合わせて4500票余だ。維新からは女性32歳が早々と立候補している。なんとしても二議席確保へ頑張りたいと思っている。

■いのちある言葉を、平和の言葉を身近なところから発信

月下星志（広島市東区）

広島カープの立ち上げに尽力した人物のひとり、河口豪（中国新聞東京支社通信部長）。河口は、球団創設への協力を取り付けようと広島県議会議員・小谷伝一のもとを訪れた。河口の説明に対し、小谷は「私をご覧のように目は見えないが、相手の音声でその人物を見わける。あなたは正直だ。力になりましょう。」と答えたという。小谷は視覚障がい者であり、「盲目の議長」と言われていた。言葉にはいのちが宿る。河口の誠意ある言葉が、多くを問わず、語らず「力になりましょう。」という言葉が導き出したのかもしれない。

「広島出身（実際は東京生まれ、東京育ち。）」
「核兵器のない世界」という言葉をアピールに「利用」しながらも、戦後最大の防衛費を決定した為政者の、いのちなき言葉を、小谷だったら、どう聞いたのだろうか。いのちある言葉は、人の心を動かす。身近なところから、平和の言葉を発信したい。

うまく言葉にできず、がむしゃらにプレーした25番が戻ってきた。FA宣言時は、言葉で反感を買った。戻ってきた25番はプレーでファンの心をつかんだ。監督として戻ってきた25番は、話すのがうまくなっていた。新生新井カープは、ウサギのごとく、飛び跳ねるか?! 東京のウサギが昼寝をしている間に、確実に一歩ずつがむしゃらに。言葉とプレーで、ファンの心を動かす。今年もよろしく願いいたします。



■放射能被害の世代を超えた影響発信へのチャレンジ

平 信行（南区）

2023年、京都「被爆二世・三世の会」は結成11年目を迎えます。

昨年末まで積み上げてきた「被爆二世・三世の健康実態調査アンケート」の集計とまとめをやりきり、回答いただいたみなさんと、全国の被爆二世・三世に、そして社会に広くフィードバック、発信していきましょう。「アンケート」結果は、「被爆二世・三世とは何か?」、「被爆二世・三世とはどのような問題、悩み、課題を抱えた存在なのか?」を広く知らせていくこととなります。そしてそれは、放射線被ばくの世代を超えた影響の具体的な姿を明らかにしていくことでもあります。地球上で膨大に行われてきた核実験の被害者、チェルノブイリや福島等の原発事故被害者、原発運転に従事する人々、すべての核被害者の、世代を超えた影響に通じていくものです。このことを念頭にチャレンジしていきましょう。

2022年から2023年にかけて、「戦争への道か平和への道か」が鋭く問われることになりました。しかし、圧倒的世論は冷静です。憲法9条の実質破壊も、大軍拡も、誰も望んではいない。ウクライナ情勢も、中国の動静も、日本の軍拡を“あおる”ためではない。アメリカ主導の、アメリカのための戦略に乗った軍拡であることは多くの人々に見透かされるようになってきています。岸田政権が勢いよく振り上げた拳を、降ろすところがないままにして、退陣に追い込みましょう。そのための共同と連帯、ネットワークの形成に力を尽くしましょう。

個人的には私の懐かしい故郷との関係をリセットする年になりそうです。広島県の北部、島根県境に近い中国山地に抱かれた山里。親から引き継いだ、屋敷、家屋、田圃、畑、山、そして墓所。いずれは管理する人がなくなる時を見越して、自分が元気な内に処理をしておかなければならない事情があります。家屋敷の処分はそれだけにとどまらず、自分の生まれ育ってきたルーツ、故郷の思い出、故郷で培ってきた人々との繋がりをあらためていくことを伴います。心の内を整理していくのはなかなか容易ではありません。

語り継ぎプロジェクト「Storytelling for Tomorrow」の企画紹介

Storytelling for Tomorrow 代表 榊原恵美子

明けましておめでとうございます。今年が皆さまにとって、さらに実りある一年となりますよう、お祈り申し上げます。

私が主宰しています語り継ぎプロジェクト「Storytelling for Tomorrow」も旧年と変わらず、あの日を生きのびた方々の声を伝えてまいります。

この3月には被爆二世の画家、増田正昭さんのご講演会を「京都教育文化センター（301会議室）」にて開催いたします。昨年完成した、南方特別留学生、サイド・オマールさん肖像画の依頼者、早川幸生先生や「二世・三世の会」世話人代表の平信行さんにもご登壇いただきます。増田さんの肖像画に込めた思いや、エピソードなど、知られざる物語を皆さまと共有できれば嬉しく思います。ぜひ京都教育文化センターへおこしてください。

《 増田正昭さんご講演会詳細 》

■日 時：2023年3月4日（土） 14:00～16:00（受付13:30～）

■場 所：京都教育文化センター 3階「301会議室」

〒606-8397 京都府京都市左京区聖護院川原町4-13

■お 話：増田 正昭さん

早川 幸生さん（南方特別留学生サイド・オマールさん肖像画作成依頼者）

平 信行さん（肖像画に描かれた被爆二世）

■定 員：39名（予約制）右記、榊原まで mail：storyteller0806@gmail.com

■参加費：800円（学生500円）＊資料代含む。

<増田さんからのメッセージ>

2022年は、被爆南方特別留学生のオマールさん、原爆「黒い雨」被害者の肖像画に挑戦しています。

引き続き、被爆者・被爆二世と対話を重ねて・・・被爆者とともに、被爆二世の生きざまも肖像画で思いを受け継いでいきたいと思っています。

これからも絵を通して発信し、描き続けていきたいと思っています。

<増田 正昭さんプロフィール>

1952年 広島市生まれの被爆二世。50歳で絵画に出会い、京都造形芸術大学大学院洋画部門を修了。

「被爆者が言葉で語れない思いを絵で表現したい」との思いで筆を執り、これまでに36人の肖像画を描く。

画家としての活動のほか、京都「被爆二世・三世の会」世話人、京都市里親会会長など幅広い活動を行っている。

※会場には、増田さんによる被爆者の肖像画を数点展示の予定です。コロナ感染予防対策を行い、皆さまのご参加をお待ちしております。



会員から会員へ ❁ みなさんからののお便り紹介

他地域の2世・3世の方からいただいたお便りも紹介いたします。

■40数年前に治癒していたはずの甲状腺機能障害の疑い

加百智津子（岡山「被爆2世・3世の会」）

年が明け、にわかにな忙しくなりましたね。お互いに、健康に気をつけ、コロナに用心して、不埒な政治家の不埒な政策に抗していきましょう。

京都在住の私の兄・片山憲二が、京都の「被爆者をはげますつどい」実行委員会からクリスマスカードを頂いたと喜んでメールで連絡してきました。彼も、甲状腺腫の発覚で少々落ち込んでいましたのでよほど元気づけられたようでした。

私自身も昨年末の人間ドックで、40数年前に手術して治癒していたはずの甲状腺機能障害の疑いが新たな形で発覚したようです（近々に再検査をします）。甲状腺異常(?)は私たち兄弟3人に影を落とすことになりました。母の被爆（父の入市被爆）との関連を疑わざるを得ません。

それでは今年もよろしくお便りいたします。

■全国の、世界の核被害者のみなさんと一緒に

門川恵美子（神奈川県原爆被災者の会二世・三世支部）

みなさん、お元気で新年を迎えられたでしょうか。

健康問題で言えば、私もガンだの甲状腺だの異常が出て年々簡単には齢をかさねることが難しいと感じられるこの頃ですが、世界の戦争、核兵器使用の危険がリアルに迫って来ていてへたっではいられない情勢ですね。

核兵器や原発が放つ放射線の本当の恐ろしさはいつときではなくずっと生命を傷め続けるものだという認識がされていないのではないかという気がしています。原爆は過去の歴史、ウクライナは遠い外国と、他人事に感じている人が多い

のではないのでしょうか。そこを訴えるのは私たちの仕事かなと。

黒い雨訴訟でがんばった被爆者の皆さんはすごいですね。小山美砂さんの『「黒い雨」訴訟』を読んでそう思いました。みなさまにも是非お勧めします。長崎のみなさんも、ビキニ事件関係の方々もフクシマのみなさんも励まされたと思います。切り捨てられてきたヒバクシャの中にももちろん私たち、被爆二世・三世も入っていますよね。全国のあちこちでがんばっている人たちがいると思うと元気が出ますね。被爆者運動はまだまだなくなりませんよね。

■新春恒例の新島襄の墓参を今年も

平 信行（南区）

1月3日、年始恒例にしている新島襄・八重、山本覚馬の墓参をしてきました。

場所は京都東山三十六峰の一角、若王子山の山頂。麓の「哲学の道」南端や熊野若王子神社が登り口です。標高183メートル、道は急坂ですがゆっくり歩いて20分で着きました。

絶好のお天気で、吹き抜ける寒風がとても気持ち良かったです。

いつもは人と出会うことはほとんどないのですが、この日はたまたま出会うことになって、記念写真を一枚お願いすることができました。



本・DVD・映画・番組・その他の紹介と交流

■迫りくる核リスク <核抑止>を解体する 吉田文彦／著

紹介 石角敏明（長岡京市）



岩波新書 990円＋税

著者はご存じのように「核問題研究」の第一人者である。「長崎を最後の被爆地」にするために、今人類が「核廃絶」のためにすべきことは何かを「発明」という言葉で提言している。プーチン大統領が「核兵器の使用」を口にするようになった世界、現在起こっている問題を例に出しながら、従来「核保有国」が「第二次世界大戦後に次の世界大戦が起きなかったのは、核抑止が存在してきたからだ」と主張する「核抑止力」の限界と脆弱性を指摘する。

「地球と人類の安全保障」という広い観点から、そして「すべての人類の安全保障」を念頭に置きながら、「核廃絶」のために何が必要で、どのような行動が求められているのか、大きな視点で提言されている。その中で「日本」の果たすべき役割も詳細に提言されている。今日本の防衛政策が大きく変化しようとしていることも取り上げ、日本が危険な道に進もうとしていると警鐘を鳴らされている。

特に最近力を発揮し始めている「市民社会」については大きな期待を寄せると共に、核兵器は「人類の敵」とであるという国際規範を形成・強化して、核兵器の居場所を無くすために力を発揮してほしい、と要求する。著者は、「市民社会」と「国際機関」「政治家」が共同で、「核廃絶」のために活動することが必要であるという。大きな視点で書かれた「核廃絶」のための運動論ではないだろうか。政治家・市民、立場を超えて読まれるべき内容である、「長崎を最後の被爆地にする」ためにも。

■「黒い雨」新制度1940人救済

被爆者手帳広島以外110人

広島への原爆投下後に降った「黒い雨」体験者の救済を拡大するため4月に始まった新しい制度で、9月末までの半年間に全国で申請のあった3653人のうち、1940人に新たに被爆者健康手帳が交付され、「被爆者」と認められたこと毎日新聞のアンケート調査で判明した。うち110人は広島以外の24自治体の住民だった。従来の制度ではこの半年間で全国で24人にしか交付されておらず、新制度により救済対象が大幅に掘り起こされた。

国は、援護区域外で広島原爆の黒い雨に遭ったと訴える原告84人全員を被爆者と認めた広島高裁判決（2021年7月）を受け、今年4月から救済対象を従来の援護対象区域の外にいた人にも広げる新制度を始めた。①黒い雨に遭ったか、その可能性がある②特定の11疾病などのいずれかにか

Scrap
book

「黒い雨」救済新制度
の運用状況(2022年9月末)

	申請	交付
北海道	1	0
青森県	0	0
岩手県	0	0
宮城県	1	0
秋田県	0	0
山形県	0	0
福島県	1	1
茨城県	3	3
栃木県	0	0
群馬県	1	1
埼玉県	8	7
千葉県	8	7
東京都	25	3
神奈川	15	9
新潟県	1	1
富山県	0	0
石川県	0	0
福井県	0	0
山梨県	0	0
長野県	1	1
岐阜県	1	1
静岡県	1	0
愛知県	11	8
三重県	1	0
滋賀県	0	0
京都府	5	4
大阪府	25	25
兵庫県	22	11
奈良県	3	2
和歌山	1	1
鳥取県	1	1
島根県	2	1
岡山県	7	5
広島県	950	547
山口県	21	12
徳島県	0	0
香川県	2	0
愛媛県	3	2
高知県	0	0
福岡県	7	2
佐賀県	0	0
長崎県	1	1
熊本県	1	1
大分県	0	0
宮崎県	0	0
鹿児島	1	0
沖縄県	0	0
広島市	2522	1283
長崎市	0	0
合計	3653	1940

かっている一の要件をともに満たした場合、手帳が交付される。

アンケートは10月、手帳交付の審査を行う47都道府県と広島、長崎両市の計49自治体を対象に実施し、全てから回答を得た。

新制度による手帳交付は9月末までに東北から九州までの26自治体であり、交付された人は広島市の1283人が最多。次いで多い広島県（広島市を除く）は547人だった。「黒い雨」の現場となった広島以外では大阪府25人▽山口県12人▽兵庫県11人▽神奈川県9人▽愛知県8人―が多かった。国は長崎では「黒い雨」が降ったとは認めておらず、新制度では長崎での黒い雨体験者は対象にならないため、長崎県で1人、長崎市ではゼロだった。

9月末時点（東京都と福岡県は22年3月末、広島県は10月下旬）で各自治体が把握している被爆者健康手帳の保有者数は全国で11万6913人おり、新制度で認定された人は約1.7%を占めることになる。審査中の案件も多数残っており、今後交付を受ける人はさらに増えるとみられる。

▼「まだ多くない」

被爆者援護に詳しい田村和之・広島大名誉教授は「『黒い雨』被爆者は長い間ほったらかしにされており、ようやく救済制度の網がかけられた。新制度は遅きに過ぎたが、ないよりは当然ましだと言える」と話す。一方、交付者数については「決して多い数ではない」と指摘する。広島県・市の調査によると、20年時点で推計1万3000人の「

黒い雨」体験者がいるとされており、「『約2000人が新たに被爆者認定』と聞いたら多い印象を与えるが、該当者の3分の1しか申請しておらず、そういう意味では多くはない」とみる。

田村名誉教授は費用対効果の問題もあるため難しい判断ではあると前置きした上で、「ある程度の該当者が見込まれる地域では、自治体が出張相談や説明会などを設けて直接申請を受け付けるなど積極的な取り組みをやってみてもいいのではないかと話した。

▼23自治体 審査苦慮

アンケートでは、手帳交付の審査にあたる自治体の難しさにもじみ出た。審査の過程で苦労している点があるかと尋ねたところ、23自治体が「はい」と回答した。

自由記述式の回答では「原爆投下時に申請者と行動をともにしていた人が既に死亡しており、申請者の行動を客観的に証明することが難しい」（愛媛県）や「被爆時の状況等を広島県の自治体や居合わせた親族等から確認する必要がある、不測の時間を要している」（鹿児島県）などが挙げられた。

当時の状況を確認するため広島県・市に対し、親族の手帳の申請状況や確認書を問い合わせる自治体も多くあった。原爆投下から77年とかなりの年数がたっているため、当時の状況を審査するのに苦慮していることがみられる。一方で広島県・市は管内住民に対する審査に加え、他自治体からの問い合わせに応える必要がある、事務負担が膨大になっていることがうかがえた。

（2022年12月29日 毎日新聞）

■本川小・袋町小・通信病院旧外来棟の展示施設 原爆資料館の附属施設に 広島市、発信力高める狙い

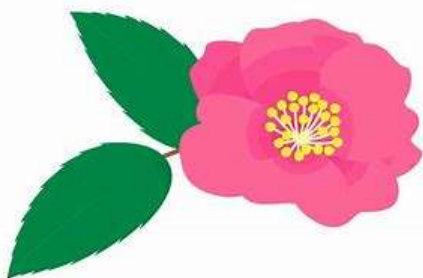
広島市中区にある被爆建物の本川小平和資料館、袋町小平和資料館、広島通信病院旧外来棟の3施設について、市が原爆資料館（中区）の附属展示施設にする方針を固めたことが12日、分かった。一体的に管理・運営し、発信力を高める狙い。2023年度から3施設の展示内容を見直すなどし、24、25年度に順次開館する。

爆心地からの距離は本川小資料館0・4キロ、袋町小資料館0・5キロ、旧外来棟1・4キロ。両小の資料館は市教委が管理し、旧外来棟は18年に日本郵政から市に無償譲渡された。各施設とも被爆資料を展示し、国内外からの来訪者に被爆の実態を伝えている。

複数の関係者によると、市は3施設を原爆資料館の附属展示施設に位置付けて効果的な展示につなげたいと考えている。必要に応じて修繕や展示の見直しをし、旧外来棟平和資料館は24年11月、本川小と袋町小の平和資料館は25年11月の開館を目指す。病院と教育施設という建物の特色を生かした平和発信の取り組みも検討しているという。

市は、米国の平和活動家の故フロイド・シュモー氏が1951年に建てた集会所を改装し、原爆資料館の附属展示施設「シュモーハウス」（中区）として12年11月に開館。復興と海外からの支援を伝える場としている。新たに附属展示施設とする3資料館は、被爆の惨禍や被爆者救護などについて発信しつつ、連携を図るとみられる。

（2023年1月13日 中国新聞）



編集 後記

▼恒例の会報新年号への新年メッセージ、今年も26人の会員のみなさんから寄稿をいただきました。ありがとうございました。お子さんのこと、お孫さんのこと、父のこと、母のこと、家族のことを語られた人がかなりありました。海外、国内の危険な情勢に胸を痛め、2023年をなんとかしようとの思いも多くの方から寄せられました。私たち「被爆二世・三世」とその世代のことをよく表していると思いました。子どもたち、孫たちの平和と幸福こそが私た

ちの願いの原点。そのために戦争を止めさせ、核をなくし、平和な世界にしていきたい、その切実さが伝わってきます。▼安保関連3文書を閣議決定し、選挙公約で民意を問うこともなく、国会にはかかることもなく敵基地攻撃能力や軍事費倍増を計画し、アメリカ・バイデン大統領だけにはいそいそと報告に赴く。一体どこの国の総理大臣かと、あらためて問われる岸田政権の姿があらさまになりました。間もなく通常国会の開会（1月23日から）。いつもにも増して国会の論戦、審議に注目していきましょう。（平）

2023年2月（如月・きさらぎ）行事カレンダー

月	日	曜	行 事
2	1	水	
	2	木	
	3	金	節分 キンカン行動
	4	土	立春
	5	日	
	6	月	6・9行動
	7	火	
	8	水	
	9	木	6・9行動
	10	金	キンカン行動
	11	土	建国記念の日 「建国記念の日」を考える京都集会2023(13時30分・弁護士会館)
	12	日	
	13	月	
	14	火	バレンタインデー
	15	水	
	16	木	
	17	金	キンカン行動
	18	土	
	19	日	京都マラソン 安保法制廃止をめざす19日行動(16時30分・円山公園→市役所前)
	20	月	
	21	火	
	22	水	
	23	木	天皇誕生日
	24	金	キンカン行動
	25	土	
	26	日	
	27	月	3・1ビキニデー国際交流会議(静岡市)
	28	火	3・1ビキニデー日本原水協全国代表者会議・分科会(静岡市)

